

異端とカルト

これを執筆している 2023 年当初は、いわゆる「宗教 2 世」問題が新聞・テレビをにぎわせていました。統一教会やエホバの証人の 2 世の方々がマスコミに登場し、その問題を訴えています。筆者は 1970 年代後半に、その異端に深くかかわっていました。その頃の統一教会は学生を中心に若者に広がり、1980 年代になると壺や印鑑を売る靈感商法で世間を騒がせました。それが再び注目される事態になっています。

異端やカルトの問題は人ごとではなく、身近で苦しんでいる方もおられます。ぜひ一緒に学びましょう。

この課で学ぶこと

1. どのように忍び寄るのか？

- (1) 大学入学時にサークル活動に見せかけて近寄ってくる
- (2) 自宅に「聖書を学びませんか？」と訪問してくる
- (3) インターネットのサイトや YouTube で

2. キリスト教の「異端」とは？

3. キリスト教の「カルト」とは？

4. 代表的な異端について

5. 異端やカルトへの対処として

- (1) 牧師に相談する
- (2) 異端カルト 110 番に相談する



●考えてみましょう

この教えは少し違うなと感じたことがありますか？

1. どのように忍び寄るのか？

まず異端・カルトがどのように忍び寄ってくるのかを紹介します。

(1) 大学入学時に、サークル活動に見せかけて近寄ってくる

サークルとなって大学内に入り込んでいる異端やカルトもあり、新生のサークル勧誘をします。表向きはスポーツ愛好会やボランティアサークルに見え、実態がわからないように活動しています。また、本来は大学内で活動禁止なのに、キャンパスに入り込んで学生に声をかける異端やカルトもあります。もし自分に声をかけてくる人がいたなら、以下の点を調べてください。

①そのサークルやその人たちの活動は、大学から認められているのか？

②誘った人は、本当にこの大学の学生なのか？

誘ってくる人やそのサークルについて幅広く調べるのが大切です。

(2) 自宅に「聖書を学びませんか？」と訪問してくる

エホバの証人は、「聖書を学びませんか」と自宅を訪問してきます。また最近では繁華街に立ち、『ものみの塔』『めざめよ』などの機関紙を販売し、個人的な聖書の学びに勧誘しています。彼らが学ぶのは新世界訳聖書という独自のもので、自分たちの教理に合わせて書き換えられたものです。その独自の聖書とともに自分たちの教理本に従って学び、本来の聖書とは違った教えへと導いていくのです。

独自の教理本や新世界訳聖書を使っていますので、その点で見分けることができます。

(3) インターネットのサイトや YouTube で

最近では、インターネットのホームページ、インスタグラム、Twitter、

Facebook、YouTube に異端やカルトへの勧誘や教えが氾濫しています。正統なキリスト教のようにまことしやかに見せかけていますので、見分けがつかないものが多いです。

特に YouTube を見る人の多い時代となったので、異端やカルトがたくさん映像を載せるようになりました。個人的に調べたところ、正統なキリスト教の映像より異端やカルトの映像の割合が多いことがわかりました。

インターネット上の情報には、特に気をつける必要があるように思います。是非、自分の見ているものが本当に大丈夫なものかを牧師などに尋ねてみてください。

2. キリスト教の「異端」とは？

「異端」ということばは、「正統から外れていること」を意味しています。ですからキリスト教の異端とは、「キリスト教の正統な教義から外れた教え」をする団体や個人を指します。

新約聖書には、数多くの異端に関する記述があります（1コリント15章、コロサイ2章、1ヨハネ2章など）。それを読むと、初代教会が異端によってかき乱されていた様子わかります。

このような異端との戦いの中で、教会は何が正統なキリスト教なのかを検討してきました。使徒信条、ニカイア信条、カルケドン信条をはじめ、近代のハイデルベルク信仰問答、ウェストミンスター信仰告白なども、正統なキリスト教を探求してきた結実だと言えます。

それでは現代に生きる私たちは、どのようにして異端を見分けたらよいのでしょうか。いろいろな見解があるようですが、ここでは使徒信条を基準にすることをお奨めします。使徒信条は、教会の歴史のかなり早い段階でまとめられ、現代に至るまで最も長く信仰の土台の教

えとされてきました。世界中の正統なキリスト教会がこれをもって信仰告白してきましたし、みなさんの教会でも礼拝の中で告白しているでしょう。

このように使徒信条は私たちの信仰の土台ですので、これから外れたり、これを否定するような信仰は異端と考えるべきでしょう。

3. キリスト教の「カルト」とは？

「カルト」ということばは、もともとは「儀礼」などを意味しましたが、今では否定的な意味合いで使われています。乱用されることばで明確な定義がなされていませんが、ここでは、第一に「反社会的な宗教団体」としたいと思います。

異端が教えに関する問題であるのに対して、カルトは社会性に関する問題になります。ですから、「異端であり、カルトでもある」団体もあることになります。代表的なものとしては、統一教会やエホバの証人などです。社会はサタンの支配のもとにあるとして、社会的ルールを軽視する行動をします。

「カルト」の定義の第二として、「個人の自由・人権・尊厳を軽視」するしたいと思います。聖書のことばを故意に誤った利用をして、これを根拠に教祖への絶対的な服従、多額な献金、過重な奉仕などを要求します。「聖書がこのように語っているのだから」と、マインドコントロールするのです。

そしてこのようなことは、それまでキリスト教の範疇にあるとされた教会でも起きる可能性があり、近年、問題となっています。牧師などの教会指導者が、権威を自分に集中させて信徒を自分の思い通りにしてしまう、いわゆる「カルト化」するのです。信徒は牧師に盲従することが優れた信仰と思い、そうしない他の信徒を排除してしまいま

す。使徒信条などの基本教理から逸脱していないので、周囲からもその教会のカルト化に気づかないこともあります。

4. 代表的な異端について

実際にどのような異端があるのか、そのいくつかを紹介します。

(1) 世界平和統一家庭連合（旧統一教会）

2022年の安倍晋三元首相襲撃事件から、再び注目されるようになりました。1954年に韓国で文鮮明が創設し、1970代には日本の大学生への伝道を強めました。1980年代に壺や印鑑を買えば災いから守られるという靈感商法や合同結婚式が問題となりましたが、2022年は、多く献金することで祝福を受けられるとする教理や、組織内で養子縁組をする問題などが浮かび上がりました。

彼らは三位一体を否定しますので、明らかに使徒信条から外れています。イエス・キリストは地上天国をつくることに失敗して十字架にかけられてしまい、贖罪は不完全のままになってしまいましたが、文鮮明(グンセンメイ)が再臨のメシアとして「統一原理」を説き、それによって統一された理想の世界が実現するとしています。

彼らは正統キリスト教と同じ聖書を持ちますが、『原理講論』という教理本をもとに聖書を解釈します。

(2) エホバの証人

1992年に、輸血を拒否していたエホバの証人の信者が、手術の際に無断で輸血した医師を訴えた事件が起きたことから注目されました。2023年には、エホバの証人の親が自分の子に、宗教的なしつけとしてムチを打つことが問題となりました。社会はサタンが支配しているものとして社会との関わり避け、選挙をしません。記念日を祝うことを拒否し、誕生日やクリスマスなども祝いません。

創始者のチャールズ・T・ラッセルは、1870頃に、「地獄はない、永遠の刑罰はない、イエスは神ではない」という、使徒信条とは明らかに違う3つの教えをもとに『ものみの塔冊子協会』をつくり活動を始めました。特殊な教理が多く、レビ記等の間違った解釈から輸血を拒否し、十字架を極端に嫌い「杭、木」と言い換えます。箴言 23:13-14のような箇所を字句通りにとらえ、しつけとして子どもをムチで打ちます。また、選ばれた14万4千人が天国に住み、その他が地上の楽園に住むとします。そのような独自の教理に合わせて書き換えた『新世界訳聖書』を、1950年に刊行しました。

(3) モルモン教

1830年に、ジョセフ・スミスがニューヨークで始めた団体です。聖書に加え、彼が神から与えられたとする『モルモン書』『教義と聖約』『高価なる真珠』を正典として、三位一体を否定し、教団が語る戒律に従うことで救われるとしています。彼らがコーヒーや茶を飲まず、タバコを吸わないのは、これらが教団から厳しく禁じられたものだからです。

(4) 摂理 (キリスト教福音宣教会、Morning Star)

1980年代に、韓国で鄭明析(チョンミンソク)が創設しました。その教えは、統一教会の『原理講論』と類似した『三十講論』からなり、自らを再臨のメシアとし、合同結婚式も行ないます。

日本の大学でも、実態を隠して様々なサークルの形で勧誘し問題となっています。また、創設者の鄭による女性暴行やわいせつ行為が問題となっています。

(5) タラッパン運動

1990年頃に、韓国の長老系牧師の柳光洙(リュガンソ)が始めた運動で、後に彼は罷免されました。基本的な教理は正統キリスト教と違わ

ないように見えますが、最も特徴的なのはサタン（悪魔）を極端に強調することです。罪も含め、自らに不都合なことはすべて悪魔のせいとして、キリストの十字架による贖罪はありません。つまり彼らの救いは、十字架による贖いによらず、悪魔からの勝利を意味します。また、既成教会の伝道が足りないと批判し、信徒を奪うことをいとわず、既成教会を混乱させることを良しとしています。

5. 異端やカルトへの対処として

いくつかの異端の紹介をしましたが、カルトについては既成教会が実はカルト化していることもあり、その説明はむずかしいものがあります。そこで、異端やカルトへの対処として、次のことを紹介します。

(1) 牧師に相談する

ご自身の通われている教会の牧師に相談するのが、最も適切な対応と思われます。牧師たちは異端やカルトについても関心を持って学んでいますから、必要な情報を持っています。また、日本同盟基督教団では、人格尊厳委員会がこの問題への研究を重ねていますので、牧師から問い合わせさせていただくこともできます。

(2) 異端カルト 110 番に相談する

超教派で「異端カルト 110 番」という団体があります。ホームページもあり、様々な情報を得ることができます。さらに、個人的な相談も受け付けています。心配なことがありましたら、どうぞ問い合わせください。

※さらに詳しく調べたい方に以下の本をおすすめします。

『異端・カルト ハンドブック』日本イエス・キリスト教団 カルト対策検討委員会編／ベラカ出版

マインドコントロールの5つのステップ

1. 信頼させる（ターゲットを褒めまくるなど、優しく親切な人を装い、心に入り込み信頼させる。）
2. 社会的遮断（一時的に孤立させ、既存の信頼関係を破壊し、自分が持っている考えに疑問を抱かせる。）
3. 恐怖を与える（社会的遮断状態で、「あなたは嫌われている」「呪われている」などの恐怖を与える。）
4. 権威の構築（心理操作する側との主従関係を作る。）
5. 自己価値（自己決定）の放棄（心理操作する側へ完全依存させる。）

カルト・異端から自分を守る方法

1. すべての人に対して常に誠実でなくても良い
2. 相手の誘いを断っても良い
3. 答えをすぐに出さなくても良い
4. 知らないことを恥じなくて良い
5. 難しい問題には正解はないと心得る（安易な正解に飛びつかない）
6. すぐに親しくなろうとする相手に注意する
7. おかしいと感じたら全力でその場から逃げる
8. 他人に依存しないで自分で考える
9. 従うことに慣れてはいけない
10. できる限り情報を集める

まともな宗教との違いは？

まともな宗教は個の尊厳と人権を尊重します。批判を許容し、よく考える時間をとって自己決定を大切にします。カルトは自己決定の放棄を迫ります。

（マインドコントロール（心理操作）対策の専門家である西田公昭氏のサイトより）